

ロシアがエクアドル産バナナの輸入を一部禁止

FreshFruitPortal 2024年2月6日

ロシア連邦動植物検疫監督局(Rosselkhoznadzor)は、エクアドルの輸出業者5社の荷から、多食性のハエの一種(*Megaselia scalaris* Loew)が発見されたことを受け、2月5日からこれら5社からのバナナの輸入を一時的に禁止すると発表した。これら5社は、エクアドルのロシア向けバナナ輸出の約30%を占めている。2023年には7,570万箱のエクアドル産バナナがロシア市場に輸出され、エクアドルの全輸出量の21%を占めた。

ACORBANEC(エクアドルのバナナ商業化・輸出協会)の執行役員であるリチャード・サラザール氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「現在エクアドルがロシアに輸出しているバナナの数量を肩代わりできる市場は他にない。したがって、この問題がこれ以上拡大しないことを願いながら、該当する植物検疫の技術的な対応にすでに取り組んでいる」と語った。

エクアドルのバナナ産業は、同国での麻薬密売の犠牲になっており、一部の犯罪組織がバナナの出荷を麻薬の輸送に利用しているため、様々な問題を引き起こしている。

植物検疫要件について、AEBE(エクアドルバナナ輸出業者協会)の執行役員であるホセ・アントニオ・イダルゴ氏は、「エクアドルのバナナ生産者と輸出業者は、バナナが輸出される65の輸出先の要件を遵守することを約束しており、果実が原産地と輸出先の持続可能性要件、品質基準、及び植物検疫上の輸入条件に準拠していることを保証するために必要な努力を行っている」と話す。

政治的緊張

5社の荷から病害虫が見つかったと主張する土曜日の発表の後、これは実際にはもっと政治的な問題だと言う人もいた。AP通信は、エクアドルが、2億ドル相当の新しい軍備と引き換えに、ロシア製の古い軍備の一部を米国に譲渡したことによるロシアとエクアドルの間の外交的緊張が原因かもしれないと主張している。AP通信の記事は、「元エクアドル外務副大臣のカルロス・エスタレジャスは、一部のバナナの輸入を禁止するロシアの決定は、古い軍備を米国に送るという決定に対する報復である可能性がある」と述べた」と伝えている。

しかし、ロシアにバナナを輸出しているエクアドル企業は他にまだ15社以上ある。イダルゴ氏は、「ロシアは我が国のバナナ生産者と輸出業者にとって非常に重要な市場であり、年間約7億5,700万ドルの外貨を生み出し、それは我が国の経済に流入している。さらに、全国で2万5千人の労働者がロシア向けのプランテーションで働いており、この問題は特に国内の小規模生産者にとって重要である」と言い、最後に「技術的、外交的、そして最高レベルで、当局が我が国にとって最善の解決策を見出すと確信している」と述べた。

執筆者: セバスチャン・ラミレス

(関連記事)ロシアがエクアドルとの問題発生でインドからバナナを調達

FreshPlaza 2024年2月7日

ロシア向けバナナの主要供給国であるエクアドルとの争いを受けて、ロシアはインドからバナナの輸入を開始し、他の果実についても模索している。この変更は、エクアドルがロシア製の軍備を米国製品と交換することを決定したことに基づくものである。バナナの生産国であるインドは、マンゴー、パイナップル、パパイヤ、グアバなど他の果実もロシアに輸出したいとの意向を示している。

インド産バナナの最初の荷は1月にロシアに到着し、次回は2月下旬に予定されている。ロシアの農産物監視機関である動植物検疫監督局は、「インド産バナナのロシア市場への輸出量は増加するだろう」と予測している。同局は最近、病害虫の懸念からエクアドル企業5社からのバナナの輸入を停止した。

エクアドルの食品安全当局は、害虫の付着はロシアへのバナナ出荷量のわずか0.3%であり、リスクはないと反論している。ロシア当局は、インド産バナナの輸入決定は米国とエクアドルの合意とは直接関係がないとしているが、ロシアには紛争相手国からの食料輸入を制限した前歴がある。

出典: independent.co.uk